

知っていますか？ 認知症

(医)中山会 中山記念病院 院長 信岡 幸彦

認知症をきたす原因

認知症と同様な症状であっても、早期に診断して治療を行えば、場合によっては認知症が回復する病気があります。

・正常圧水頭症

脳室(脳の中にある空間)などに髄液が多量にたまる病気で、中高齢者に多く見られます。くも膜下出血、頭部外傷、髄膜炎後などに歩行障害、認知症、尿失禁などをきたし、ゆっくり進行します。手術によって症状の改善を認める可能性があります。

・慢性硬膜下血腫

転倒などの頭部外傷後3週間以上を経て、硬膜下に血液が貯留して血腫となります。頭痛、片麻痺、失語、意識障害、認知症様症状などが出現し、1～2週間かかって次第に進行します。治療は脳外科で血腫を除去します。治療が遅れると認知症が回復しなくなります。

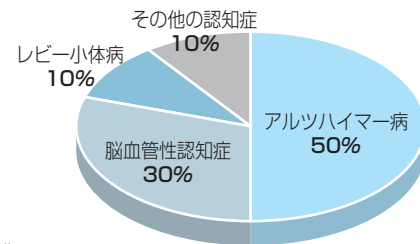
・前頭葉脳腫瘍

高齢者では、特に認知症症状のみを症状とする場合があります。

・甲状腺機能低下症

注意力低下、不活発、失見当、妄想、認知症症状などが見られます。

認知症の治療は？
種類は？



出典
【須貝佑一ほか：あなたの家族が病気になったときに読む本
認知症。講談社、2006】

アルツハイマー病

認知症をきたす原因としてもっとも多い病気で、診断されると治療が始まります。変性疾患と呼ばれ、原因不明で脳細胞が壊され減少して起こります。

・薬物治療……塩酸ドネペジルという薬があり、病気の進行を遅らせる効果や認知機能を改善させる効果があります。

・デイケアで行われる回想法など

脳血管性認知症

認知症をきたす原因として、次に多い病気です。

脳血管性認知症は小さな脳梗塞が起こり、次第に認知症が発症することが多いと考えられています。また、麻痺などの後遺障害を残すような脳梗塞や脳出血の半年後以降に起こることがあります。脳梗塞を起こしやすい病気である心臓病や糖尿病や高血圧症などの病気をきちんと治療しないと、脳梗塞の再発や認知症の悪化を招くことがあります。

起こさないためには…できるだけ、家に閉じこもらないで、外に出ましょう。
近所や家族、友達とお話したり、体を動かすことが、廃用症候群といわれる体の機能低下をきたさず、認知症の発症の予防や悪化の防止になるのです。

その他の認知症

認知症は他にもさまざまな原因で起こります。

・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症……変性疾患と呼ばれ、原因不明で脳細胞が壊され減少して起こります。

・脳腫瘍の手術後に起こるもの

・転倒や交通事故など頭部打撲による脳挫傷

とにかく認知症ではないかと疑ったら、早期に医療機関を受診しましょう。

「認知症かも…」って思ったら、まずは病院に受診しましょう。早期受診・早期治療により進行を遅らせることができます。



合志市では今年度から「認知症地域支援体制構築等推進事業」に取り組みます。認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を支えていくための事業を展開していきます。

問い合わせ先 高齢者支援課 包括支援センター班(西合志庁舎) ☎242-1124

認知症は85歳以上の4人に1人にその症状があるといわれています。



認知症とは？

認知症って単なる年のせい？



認知症は脳の病気です。きちんとした早期の診断と治療が必要です。



認知症を物忘れと同じように年のせいだから仕方がないとあきらめていませんか？認知症は糖尿病や脳梗塞など、他の病気と同様にきちんとした診断と治療が早期に行なわれることが必要です。早期に治療すると認知症症状が回復する。もしくは、認知症とは異なる病気である可能性もありますので、早期の診断が必要です。また、治療を早期から行なうことによって認知症の進行を抑え、精神症状や行動の障害を改善させて家庭生活を送りやすくすることもできます。

医療機関のかかり方

認知症が疑われたら、どの医療機関を受診すればよいのか迷われると思います。

まずはかかりつけの先生にご家族と一緒に相談をしてください。より専門的な診断や治療が必要であれば、かかりつけの先生から地域のサポート医や専門医に相談や紹介をしていただくことになります。

サポート医とは、かかりつけの先生と専門医をつなぐ役割をします。専門医とは、精神科あるいは神経内科や脳神経外科の先生です。

精神科…アルツハイマー型認知症などに伴う精神症状や行動の障害についての治療(外来・入院含む)や、うつ病などの精神疾患との鑑別診断を行います。

神経内科や脳外科…認知症と脳神経の病気との鑑別診断に精通しています。

認知症になったら、どの病院に行ったらいいのでしょうか？



まずは、かかりつけ医に相談しましょう。



認知症の検査とは？

病院ではどんな検査をするの？



医療機関で受診すると、まず治療可能である病気なのか、あるいは、アルツハイマー病などの認知症なのかを見分けることをします。診察やCT検査やMRI検査を行ない診断します。

『認知症』と『もの忘れ』の違い

もの忘れ	認知症
食事では何を食べたかと思いつけない	体全てを忘れる 食事をとったこと自体を忘れてしまう
時間や居場所が理解できる	時間や自分のいる場所を忘れる
もの忘れの自覚あり	もの忘れの自覚なし
日常生活の支障なし	日常生活に支障をきたす

